広報 やまと

3月号

2014 No.232

《特集》村政に対する所信

3月25日甲子園球場一塁側アルプススタンド大島高校応援団

平成26年度 村政に対する所信

～3月5日大和村議会からの全文掲載～

施政方針を述べる伊集院幼村長
平成２６年３月５日大和村議会

本日ここに、平成26年度の予算並びに諸議案をご審議いただくにあたり、村政に対する所信を明らかにするとともに、主要施策と予算の概要を申し上げまして、一般会計並びに各特別会計予算の提案理由とさせて頂きますので、議会並びに村民各位のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

それではまず、本村を取り巻く財政状況について申し上げます。

本村の財政運営に大きな影響を与える国の予算は、社会保障を始めとする義務的経費等を含め、聖域なく予算を抜本的に見直した上で、経済成長に資する政策に重点化を図るとの基本的な考え方により編成されたところであります。

また、高齢化等により社会保障関係費が増大する中で、消費税率が引き上げられる平成26年度予算については、国民に負担増を求める際に、各経費が安易に膨張したり、無駄な経費があるといった批判を招くことがないよう予算の重点化・効率化の推進に徹底して取り組むこととされています。

地方財政対策については、社会保障関係費の自然増や公債費が高い水準で推移することなどにより、地方財政全体では、10兆6千億円と依然として多額の財源不足額が見込まれる中、地方交付税が国の一般会計からの加算措置等の減額に伴い2千億円減少する一方で、一般財源総額については、地方税収等の増により、平成25年度地方財政計画の水準を上回る額が確保されているところであります。

鹿児島県においては、平成16年度に４５１億円あった財源不足額について、県勢の発展や県民福祉の向上に資する事業についてはその財源を十分に確保した上で、「県政刷新大綱」や「行財政運営戦略」に基づく歳入・歳出両面にわたる徹底した行財政改革の取組によって、平成23年度以降解消され、平成26年度においても財源不足の生じない予算編成が実現なされております。

しかしながら、一層の高齢化の進行や社会保障制度の改革により扶助費が引き続き増加する傾向にあり、また、公債費は、本県が独自に発行する県債の抑制に努めているものの、地方交付税の振り替えである臨時財政対策債の増などにより、引き続き高水準で推移することが見込まれているところであります。

さて、奄美群島におきましては、平成26年度は、奄振法の延長・改正を前提に新規に農林水産物輸送コスト支援や航空・航路運賃低減、奄美群島世界自然遺産登録推進等の交付金制度が創設され奄美群島の自立的発展、産業振興に向けても非常に大切な年になると認識しており、関係機関と連携しながら取り組んで参りたいと考えております。

それでは、平成26年度、本村の行財政運営の基本方針について申し上げます。

自然と共生し、安心して住みよい村づくりをめざして

本村も、鹿児島県同様に厳しい財政状況ではありますが、これまで、「自然と共生し、安心して住みよい村づくり」を基本理念に、諸施策を推進して参りました。

しかし、90％以上を依存財源に頼らなければならない状況下であるため、構造的な財源不足は続くものと考えられますので、国の地方財政対策に留意して予算編成を行いました。

村においては、これまで有利な補助事業や村単独事業により、諸施策を進めてきたところであります。

また、地方交付税においては、平成19年度から4年連続増加しておりましたが、平成23年度から減少に転じ、今後も国の動向が不透明な状況にあることから、本村の財政運営は厳しい状況が続くと予想されます。

このように限られた財源のなかで行政サービスを維持しつつ、村民の福祉の向上を図ることを理念に、効率的な行政を進めるため

(1) 行財政改革の推進による健全財政の確立
(2) 農林水産業の振興による特産品の開発及び販路の拡大
(3) 定住促進対策による村の活性化
(4) 子育て支援及び教育環境の充実
(5) 道路交通網、情報通信網、生活環境の整備促進
(6) 防災力の強化による安全・安心な村づくり
(7) 高齢者福祉の充実

以上、7つの基本方針を定め予算編成を行いました。

次に、予算の概要について申し上げます。

一般会計の予算総額は、前年度当初対比で０．５％、１千３３８万円増の、２８億６９６万２千円となりました。

主な内容といたしまして、歳入におきましては、地方交付税、国庫支出金、村債、県支出金で歳入総額の約9割にあたる25億1千万円を見込みました。

歳出におきましては、防災センター建設等の投資的経費が前年度対比６千７６１万４千円減額の、７億６千８９４万７千円を計上いたしました。

また、村民に身近な生活基盤の整備や扶助費等については財政上可能な限り取り入れる一方、経常経費の抑制に努め、財源の効率的な配分に努めました。

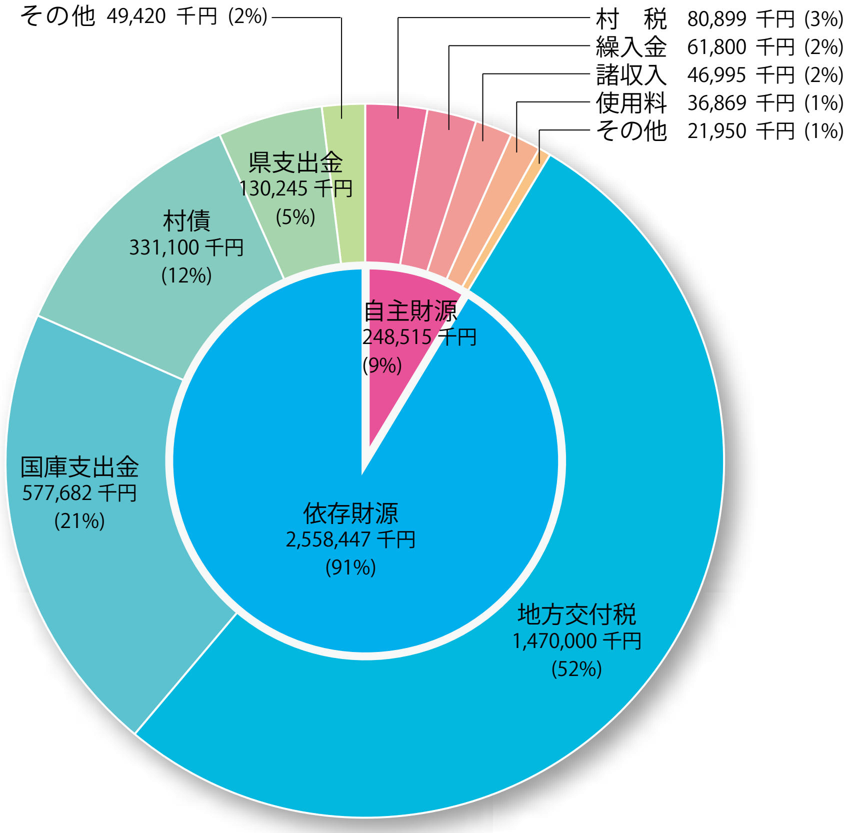
次に基本方針実現のための主要施策について申し上げます。

歳入総額　２８億６９６万２千円の性質別内訳

自主財源　村税など村が独自に調達するお金
依存財源　国や県から村に入るお金

村税　住民税や固定資産税などのお金
使用料　施設の利用料などのお金
諸収入　預金利子など
財産収入　財産の貸し付けや売却による収入
繰越金　前年度から持ち越したお金

地方交付税　村の状況に応じて国から貰うお金
国庫支出金　事業を行うために国から貰うお金
県支出金　事業を行うために県から貰うお金
村債　村が借り入れるお金
地方譲与税　国から配分されるお金
各種交付金　国から配分されるお金



一般会計歳入
　歳入の中心を占める地方交付税は２千万円の減額となりましたが、県支出金が地籍調査事業や農林水産物輸送コスト支援事業などにより３千７７０万７千円の増額、地方債が津名久防災拠点施設の整備などにより１千７１０万円の増額となりました。自主財源は諸収入の減額などにより１１１万９千円の減額となり、自主財源比率は０．４％の減少となりました。

(1) 行財政改革の推進による健全財政の確立

まず1点目は、行財政改革の推進による健全財政の確立であります。
ここ数年の起債の繰上償還の実施や新規発行債の抑制等により、公債費は減少してきておりますが、今後少子高齢対策や各特別会計への繰出金、そして地域活性化のための新たな財政需要も増えてくるものと予想されます。
このため、引き続き行財政改革を推進し、行政事務全般における見直しを行うとともに、財政構造の弾力性を示す経常収支比率をはじめとする財政指標の改善を図るべく、歳入歳出の徹底した見直しを図り、健全財政の確立に努めます。
歳入についてでありますが、村税の適正課税と収納率の向上による自主財源の確保に努めると共に、事業の推進にあたっては、国・県の動向を注視しながら、補助事業を優先するほか、村債についても辺地債や過疎債など、できるだけ有利な起債を導入し後年度負担の抑制に努めます。また、村税等の未収金対策については、徴収体制の確立を図りながら、収納率の向上による自主財源の確保に努めます。
歳出については、経費の節減合理化を図り、消費的経費の抑制に努め、特に人件費については、定員適正化計画を基本に抑制に努めます。

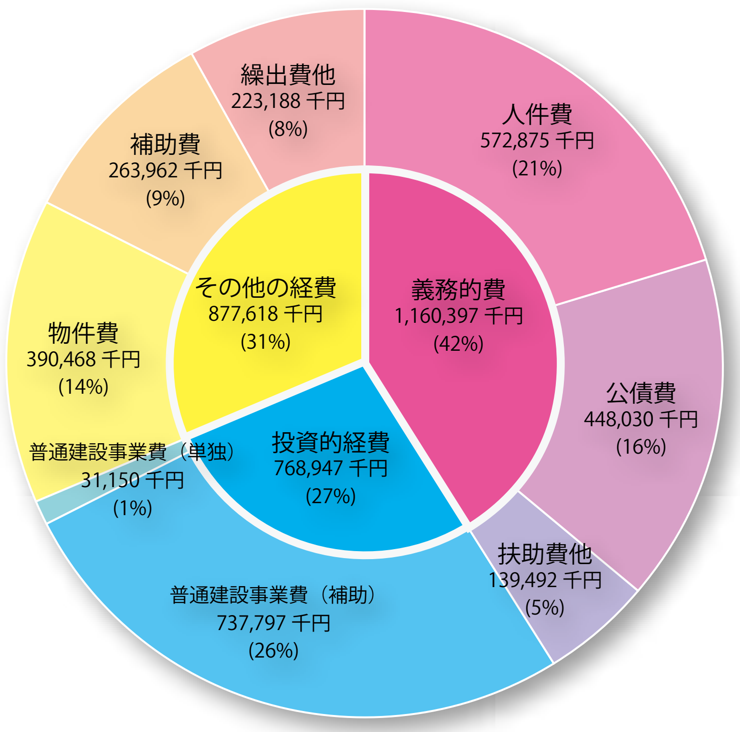
(2) 農林水産業の振興による特産品の開発及び販路の拡大

次に、農林水産業の振興による特産品の開発及び販路の拡大であります。
農業の振興につきましては
①基幹作物である、スモモ・タンカンについては、今後とも、土づくりのための有機質堆肥や肥料及び苗木の購入に対する助成を継続実施します。
また、大棚毛陣地区に整備した実証農園を栽培技術指導の拠点として活用し、栽培技術の向上による農家所得の増加を図る他、観光農園としても整備を進め都市と農村との交流人口の拡大を推進します。
②平成24年度に選果機の更新をした、湯湾釜選果場については、引き続き村による管理・運営を行い、関係機関と連携を図りながら、農家の有利販売に努めます。
③現在実施している名瀬中央青果市場への集出荷委託事業を継続し、利用者の拡大に努め、地場消費の拡大や産地育成を図ります。
また、本年度も地元市場及び島内の現地視察等を継続実施し、栽培技術と生産意欲の向上を図る他、大和まほろば館を活用して、地産地消を推進します。
④県営農地環境整備事業を引き続き推進し、生産基盤の整備を進めます。
⑤農地の有効活用対策として、農地の動向や所有者の意向調査及び農家台帳の整備を行い、農地の流動化を推進し、耕作放棄地の解消による農業の振興を図ります。
⑥農業の多面的機能の維持・発揮のための地域活動や営農活動に対しての支援を行います。
⑦特産品のPR活動については、奄美群島観光物産協会等と連携を図りながら広域的に取り組む他、村独自でも神奈川県大和市や東京都板橋区においてトップセールスを行う他、今年は関西地区へも発信して参ります。
また、大和まほろば館を情報発信拠点施設として、特産品の開発や加工品の販売促進を図る他、観光ルートに位置づけられるよう販売ブースの拡張に努めます。
林業の振興につきましては
①平成23年度に鳥獣被害防止対策事業で導入したイノシシ捕獲用の箱罠を有効活用するとともに、地元猟友会と連携を図り、迅速で効果的な有害鳥獣捕獲事業を通年実施し、被害の防止に努めて参ります。
②地域森林環境づくり促進事業や里山機能回復事業を実施します。
また、保存松への樹幹注入も引き続き実施いたします。
③特用林産物であるシイタケやシキミの栽培についても実証農園で試験的に取り組みます。
④治山事業を推進し、安全性の向上に努めます。
水産業の振興につきましては
①離島漁業再生支援交付金・推進事業を継続実施し、漁場生産力の向上、海域環境の保全、漁場の監視並びに、藻場の育成、各種苗の放流など多面的機能の維持増進を図る他、村単独でも藻場の造成を進めます。
②オニヒトデ駆除対策事業を導入し漁場の保全を図ります。
③燃油の高騰等による出漁機会の減少対策として、新たに燃油の購入に対する助成を行い、漁業振興に努めます。
商工業及び観光の振興については
①村内の商店は、村外消費の増加などにより厳しい経営状況にあるため、奄美商工会へ助成を行い、商工会による

歳出総額　２８億６９６万２千円の性質別内訳

義務的経費　任意に削除できない経費
投資的経費　支出の効果が将来に残る経費
その他経費　義務的経費と投資的経費以外の経費

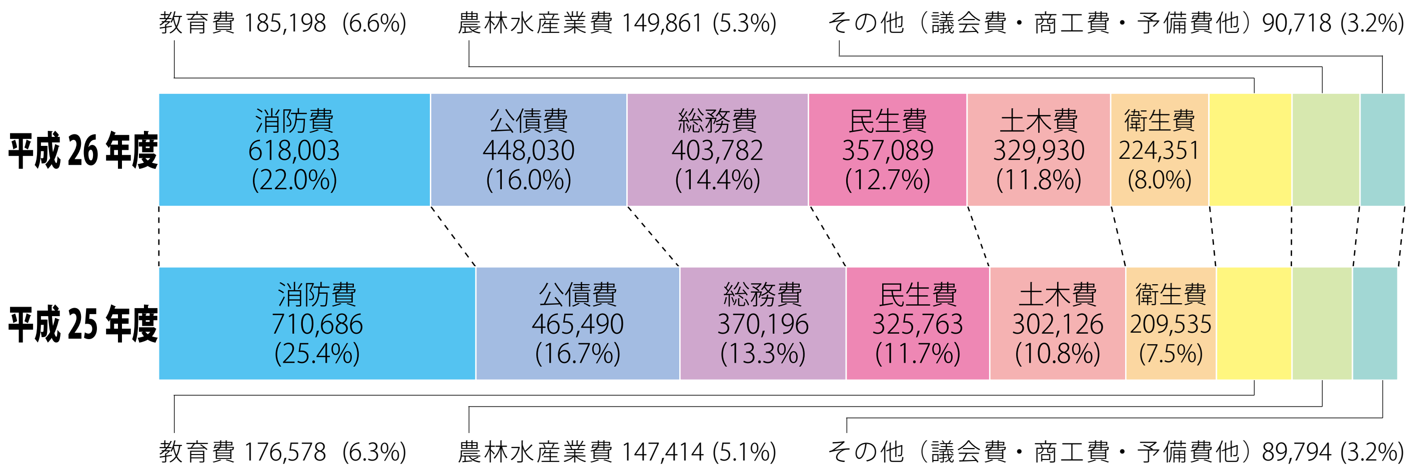
公債費　借金の返済のための経費
人件費　職員給与や議員報酬など
扶助費　法律等に基づく福祉的経費
単独普通建設　村が単独で行う投資的経費
補助普通建設　国からの補助を受けて行う投資的経費
災害復旧事業費　災害の復旧に要する経費
物件費　消耗品などの消費的経費
補助費　各種団体へ負担や補助する経費
繰出金　特別会計へ払い出す経費



一般会計歳出
　義務的経費においては、公債費が新規発行地方債の抑制や繰上償還の実施などにより減少したものの、人件費や扶助費の増額により４１０万２千円の増額となりました。投資的経費は防災センター整備事業費の減少などにより６千７６１万４千円の減額となりました。その他については、物件費が地籍調査事業の増額やスクールバスの増台などにより３千２４万５千円の増額となり、補助費についても航路・航空路運賃軽減等事業負担金や農林水産物輸送コスト支援事業補助金などにより、３千２８０万５千円の増額となりました。

一般会計歳出総額　２８億６９６万２千円の目的別内訳

単位：千円、（　）内は構成比



歳出費目	村民１人当たり	使われた内容
消防費	378,000円	消防活動や救急活動など
公債費	274,000円	これまでの施設整備のなどで借りたお金の返済など
総務費	247,000円	総務管理や財産管理、企画調整、地域振興、税務事務など
民生費	218,400円	児童や高齢者、障害者の福祉など
土木費	201,800円	道路や公園、住宅の整備など
衛生費	137,200円	健康増進事業やごみ、し尿の処理など
教育費	113,300円	学校の管理運営や施設整備、生涯学習の推進など
農林水産業費	91,600円	農業や林業、水産業の振興など
その他の経費	55,500円	議会運営や商工業の振興、災害復旧など
合　計	1,716,800円	平成26年4月1日現在人口：1,635人

経営改善普及指導等を支援します。

また、元気度アップポイント事業を継続実施し、村内商店の利用促進を支援します。

②連合青年団主催のひらとみ祭りについては、引き続き助成し、開催準備等の支援を行います。

③奄美フォレストポリスの管理については、指定管理者の経営改善、雇用の確保、利用者のサービス向上に努めます。また、村独自の各種イベントの開催やスポーツ合宿等を誘致し、奄美フォレストポリスの利用促進を図り、

経営の安定に努めます。

④県と連携し、奄美大島本島の西回りルートである名瀬瀬戸内線沿線に引き続き公園を整備し、観光の振興と併せて村のＰＲを図ります。

⑤全国版のスポーツイベントである、ジャングルトレイル等のイベントは、村のＰＲ等につながるため、今後とも開催についての支援を行います。

⑥交流自治体関係者を村内へ招待するモニターツアーを実施し、本村の魅力についてＰＲを行い、交流人口の増加を図ります。

(3) 定住促進対策による村の活性化

次に定住促進対策による村の活性化についてであります。

定住促進施策につきましては

①高校生通学バスの全額助成をはじめ、出産祝金、育児助成金、新築住宅助成金、里親助成金、今里親子留学助成金等の交付を引き続き行います。

特に新築住宅助成金については、現行の２０万円から１００万円に増額し村内定住者の増加を図ります。

②公営住宅の建設については、今後は、需要の実態等を調査し、単身者向けの新たなタイプの住宅の建設についても、建設計画を策定し、定住促進を図ります。

③空き家となっている村内の住宅については、年次的に改修等を行いながら住居の確保に努めます。

④24年度に発足した、定住促進対策検討委員会等で、村外からの転入者の増加策や村内在住者の転出防止策等の人口減少問題について、あらゆる方向からその対策について協議を行います。

⑤個人が行う空き家改修に対する新たな助成制度により、転入者の住居の確保を図ります。

⑥若者の出会いの機会を設定する婚活支援を行い、定住促進を図ります。

(4) 子育て支援及び教育環境の充実

次に子育て支援及び教育環境の充実についてであります。

全ての村民が安心して、生きがいのある生活を送るには、健康が大切であります。そのために村民の健康管理の支援を行うとともに、子育て支援を強化します。

また、教育環境の整備や人間性豊かな人づくりに努めて参ります。

①少子化対策は重要な課題でありますので、引き続き延長保育や土曜保育、放課後児童クラブを実施すると共に、村単独の育児助成金を支給するなど子育て支援を充実します。

②乳幼児から中学校卒業時までの医療費無料化を引き続き実施します。

③学力対策協議会への助成を引き続き行い、基礎学力の確実な定着や教職員の資質向上、児童生徒の体験活動による、生きる力の育成、学力の向上に努めます。

④児童生徒が郷土の自然や文化等にふれる、体験活動を支援する「大和っ子スクール」を継続実施するとともに、未来に羽ばたく「大和っ子」を育てるため、青少年の健全育成に努めます。

⑤防災センター建設期間中の公民館講座については、出来る限り受講生に不便がかからないよう集落公民館等を活用して実施します。

⑥村民が参加できるスポーツ等のイベントの継続実施や、総合型スポーツクラブ「大和体遊クラブ」等と連携し、村民の健康増進に努めます。

⑦25年度に試行運行を実施した国直、湯湾釜方面からのスクールバスの運行については、4月から実施いたします。

(5) 道路交通網、情報通信網、生活環境の整備促進

次に、道路交通網、情報通信網、生活環境の整備促進についてであります。

生活の基盤である道路交通網や情報通信体系、集落内の生活環境の整備等については、本村の活性化に最も重要な社会基盤であるため、更に整備の促進を図ります。

道路交通網については

①本村の農業拠点である福元地区や奄美フォレストポリスへのアクセス道路である、村道大棚名音線道路改良事業を継続実施し早期完成を目指します。

また、集落内の村道については集落排水事業と併せ整備を進めます。

②村道等の除草や路面補修等を行い、安全で快適な通行を図るため、維持補修に努めます。

③主要地方道名瀬瀬戸内線のトンネル化を含む整備については、隣接市町村や関係機関と連携を密にして早期着工に向けて事業推進を図ります。

④県道の一部の区間において、権限委譲により、村が直接維持管理を行うことで、村内雇用の創出を図ります。

情報通信体系については

①これまでに整備してきた、防災行政無線、エリアメール、衛星携帯電話等を有効に活用できるよう、訓練を重ねるとともに、関係機関との連携強化に努めます。

②奄美ＦＭについては、多くの村民が聴取する情報源として大変有効な手段であります。このため、身近な生活情報や災害時の防災情報等、村の情報を積極的に提供し、村の広報・ＰＲに努めます。

③広報やまとの更なる充実、防災行政無線等による広報活動、ホームページの充実等積極的な情報発信に努めて参ります。

生活環境の整備については

①環境保全の観点から、生活排水対策として、東部地区と併せて中部地区の整備を促進します。

②ごみの分別収集を行い、資源ごみのリサイクル促進を図り、ごみの減量化に努めます。また、環境保全の面から関係機関と連携し、車輌の放置防止やごみの不法投棄防止に努めます。

③ヤンバルトサカヤスデは、近年、減少傾向ではありますが、引き続き一部有料により駆除用薬品を配布し、駆除に努めます。

自然保護に関する取り組みとしては

①奄美野生生物保護センターや奄美自然体験活動推進協議会等と連携し、自然保護思想の普及啓発に努めます。

②鹿児島・沖縄両県をはじめ群島内各市町村と連携して、奄美群島の国立公園化や世界自然遺産への早期登録を目指した取組を推進します。

③植生破壊等による生態系への被害を防止するため、継続して、ヤギ被害防除対策事業によりノヤギの駆除を実施するほか、ノイヌ、ノネコ対策についても関係機関と連携して取り組みます。

④昨年度に引き続き、自然保護推進員を配置し、希少種の生息調査や盗掘防止パトロールを行います。

ボランティアヘアーカット（大和の園）

消防出初め式（大和中校庭）

村内一周駅伝競走大会（名音隧道）

いもーれ学校週間（大和中）

お店屋さんごっこ（大和保育所）

スモモ天日干し（大和まほろば館）

全職員輪番でトイレ清掃（大和村役場）

高齢者福祉の充実

タラソ利用助成	1,320 千円
障害者行き場づくり	2,252 千円
元気度ｱｯﾌﾟﾎﾟｲﾝﾄ事業	2,120 千円
敬老年金	8,940 千円
高齢者バス賃	2,520 千円
介護手当	1,920 千円
社会福祉協議会補助金	3,000 千円
老人クラブ育成事業	1,070 千円

防災力の強化による安心・安全な村づくり

防災センター整備	404,697 千円
避難所整備	70,000 千円
常備消防費	115,054 千円
非常備消防費	10,285 千円
消防施設費	268 千円
災害対策費	1,836 千円
防災無線保守委託費	2,575 千円
災害救助費	450 千円

道路交通網、情報通信網、生活環境の整備促進

大棚名音線改良工事	211,100千円
村道舗装補修費	40,000千円
床版橋建設事業	2,600 千円
県単補助治山事業	8,100 千円
集落排水（東部）	344,700 千円
集落排水（中部）	13,650千円
あまみＦＭ中継局管理	840 千円
広報やまと印刷費	1,245 千円

子育て支援及び教育環境の充実

乳幼児医療費助成	1,604 千円
子ども医療費助成	1,006 千円
ひとり親家庭医療費	1,004 千円
児童手当	15,000 千円
保育所運営費	39,214 千円
スクールバス運行	12,000 千円
公民館費	14,730 千円
学力対策協議会補助金	950 千円

定住促進対策による村の活性化

出産祝金	2,500 千円
育児助成	3,060 千円
高校生通学バス助成	12,579 千円
里親助成	360 千円
今里親子留学助成	2,400 千円
新築住宅助成	1,000 千円
空家改修助成	600 千円
住宅購入費	3,000 千円

農林水産業の振興による特産品の開発及び販路の拡大

農業生産向上助成事業	7,321 千円
鳥獣被害防止対策事業	640 千円
里山林機能回復事業	3,040 千円
ｵﾆﾋﾄﾃﾞ駆除・藻場造成	1,330 千円
水産振興助成金	300 千円
水産品販売及び広報費	1,908 千円
観光誘致助成事業	1,009 千円
ﾌｫﾚｽﾄﾎﾟﾘｽ管理委託料	8,160 千円

行財政改革の推進による健全財政の確立

村民税	35,840 千円
固定資産税	34,209 千円
村たばこ税	6,806 千円
軽自動車税	4,044 千円
村営住宅使用料	33,984 千円
村債借入れ	331,100 千円
村債償還金（元金）	397,549 千円
村債償還金（利子）	50,481 千円

(6) 防災力の強化による安心・安全な村づくり

次に、防災力の強化による安全・安心な村づくりについてであります。

近年、多発傾向にあるあらゆる災害から村民の生命と財産を守るため防災力の強化に努めて参ります。

①村民の防災意識を高め災害時に迅速・的確に行動ができるように、消防や集落、各種団体と連携し、全村民を対象とした総合防災訓練を継続して実施いたします。

②各集落自主防災組織の育成・強化を図るため訓練等の支援をいたします。

③災害時の避難施設である集落公民館等については、年次的に避難所としての機能の向上を図る等、防災関連施設の整備を推進します。

④防災の拠点施設として、総合的な防災機能を備えた、防災センターの建設を推進いたします。

⑤災害から村民の生命・財産を守り、安全・安心に暮らしていけるように、奄美豪雨災害や東日本大震災の自然災害を教訓に、大和村地域防災計画の見直し等を行い、災害に強い村づくりに努めます。

⑥急傾斜地崩壊対策事業については、継続事業と新規も含めて推進いたします。

(7) 高齢者福祉の充実

そして7点目は、高齢者福祉の充実についてであります。

①診療所をはじめ県や健康づくりリーダーなど関係機関と連携して、各種検診率の向上を図るとともに、健康教育及び訪問指導の強化や個人レベルでの健康づくりの意識の高揚など、健康増進をサポートできる環境づくりに努めます。また、今年度も昨年度同様に各集落で検診を行うなど、特定検診率の向上に努めます。

②介護保険については、今後とも村民の健康増進とともに、介護保険料の抑制、被保険者の負担軽減のためにも、包括支援センターを中心に、引き続き集落介護予防教室やタラソ利用助成など健康増進活動を実施し、村民の介護予防意識の高揚に努めて参ります。

③介護支援事業所・国保大和診療所と連携を密にしながら、訪問指導や健康相談等を充実し、個々の健康意識を高め医療費の抑制に努めます。

また、社会福祉協議会への支援を継続して行いながら、社会福祉協議会と連携し、高齢者等の安全・安心な生活支援、在宅訪問サービス等の充実に努めます。

④老人クラブへの育成補助及び各種大会の参加助成を行い、高齢者の社会参加を支援いたします。

⑤大和の園については、地域に信頼される施設として、入所者が受けたい介護福祉サービスの提供を行い、入所者が安全・安心な園生活が送れるための施設改善や健全な運営に努めます。

⑥住民主体の地域福祉を推進するため、地域支え合い活動を支援いたします。

⑦障害者等の行き場づくり事業に対し、継続して支援を行います。

⑧高齢者の自主的な健康づくりや社会参加活動に対して、ポイントを付与し、高齢者の健康維持や介護予防への取り組みを支援する、元気度アップポイント事業を推進いたします。

以上、村政の基本方針と主要施策の概要を申し上げました。

私も2期目に入り目標とする施策の成果は、まだ道半ばでありますが、初心を忘れることなく本村の発展のために全力を傾注して参りたいと思います。

平成26年度も厳しい財政状況ではありますが、効率的な予算執行の基で、所期の目的を達成すべく、全職員一丸となって努力し、村民とともに夢を持ち、自然にやさしい、大きく和する、明るく心豊かなまほろば大和の創造を目指したいと考えております。

そして、先人が築き上げた功績を守りながら、「豊かな自然や伝統文化」を継承し、後世に残していくための施策を講じて参りますと共に、大和村の基本理念である「自然と共生し、安心して住みよい村づくり」を実現するために努力して参ります。

これからも、村政の運営については、村民の立場に立って行うことを基本とし、施策実現のために邁進していく所存でございますので、村議会並びに村民の皆様の更なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、施政方針といたします。

第８６回選抜高校野球大会・大島高校出場

感動をありがとう。

第86回選抜高校野球大会（日本高校野球連盟・毎日新聞社主催）に奄美市名瀬の県立大島高校が「21世紀枠」として選出され、鹿児島県の離島勢として初めて甲子園初出場を果たしました。

「島から甲子園！」のビッグニュースに市街地では花火が打ち上げられ、地元新聞社は号外を発行。島内各地でイルミネーションや懸垂幕、ポスターが掲示された他、インターネットに市民らの応援動画が投稿されると瞬く間に全国へ拡散。島民の盛り上がりは60年前の「奄美群島日本復帰以来」と言われる程でした。

そして迎えた３月25日の決戦当日。阪神甲子園球場は異様な雰囲気に包まれました。球場の周りは大高スクールカラーの緑色のキャップとジャンパーを身につけた人たちが列をなし、周囲では当たり前のように方言が飛び交いました。一球ごとに揺れるような歓声の雰囲気に、対戦相手の龍谷大平安高校（京都府）原田監督が「アウェー（敵地）で試合をしているようだった」と感想を漏らすほど。

試合は初回から大島高校の先頭バッターがヒットで出塁するなどチャンスメイク。守ってはエース福永が打たせて取るピッチングで相手打線を翻弄し、五回表まで１対１の好ゲームを展開しました。

結果は・・・ご存じのとおり２対16の大差で大島高校は破れました。勝負の世界で「たら」「れば」はタブーですが、三度の本塁憤死や走塁ミスなどがなければもっと違った流れになっていたはず。両校の実力は点差ほど開いてなかったように感じました（実際に今大会平安高校から二桁安打を放ったのは大島高校のみという強打ぶりでした）。

試合を終え、感動に涙する大人たちとは対照的にスタンド前に整列した選手たちの表情は笑顔に満ち溢れていました。夢の大舞台に立ち、全力でプレーする彼らの姿は全国のシマッチュに勇気と誇りをもたらしました。日本復帰60年や世界自然遺産登録という節目を迎え、新たなスタートをきる奄美大島を後押しするような夢の２か月間だったように思えてなりません。

奄美が甲子園熱から落ち着きを取り戻し始めた４月３日、思わぬ朗報が飛び込んできました。甲子園出場校の応援団を対象にした「応援団賞」の発表があり、大島高校応援団が最優秀賞を受賞したのです。くしくも一回戦で大島高校と対戦した龍谷大平安高校は優勝を果たしました。今もシマッチュたちの記憶に残るあの試合は第86回センバツ大会の「勝負」と「応援」のダブル優勝の１回戦として記録にも残りました。感動のドラマをくれた選手と関係者の皆さんに心から感謝します。

第12回 まほろば大和ウォーキング大会

満開のヒカンザクラの下で森林浴

　第12回まほろば大和ウォーキング大会（大和村・大和村教育委員会主催）が1月26日（日）に奄美フォレストポリスで開催されました。大会には村内外から３０１人が参加し、見頃を迎えたヒカンザクラを眺めながらウォーキングを楽しみました。

　ウォーキングコースはファミリーコース（4キロ）、桜並木散策コース（6キロ）、チャレンジコース（8キロ）の3コースがあり、午前10時に管理棟前をスタート。参加者はジョギングで疾走する方もいれば、ベビーカーを押しゆっくりと歩く方、おしゃべりを楽しむ方など思い思いのペースで足を進めました。

　見所は数百本のヒカンザクラが咲く水辺の広場の桜並木。それぞれ撮影ポイントで足を止め、携帯電話やデジタルカメラで記念写真に収めていました。

　ゴール地点では恒例の豚汁販売や地場産農産物の販売、健康チェックコーナーが設けられたほか、航空券など豪華景品が当たるお楽しみ抽選会を開催。当選番号が発表される度に参加者から歓声が上がりました。

　同ウォーキング大会は、ヒカンザクラの開花に併せ毎年1月の最終日曜日に開催しています。来年も多くの方のご参加くださいますようお待ちしています。

第5回 宮古崎つつじウォーク 3月9日（日）

①コース一番の難所崎ノ浜の階段　②宮古崎はリュウキュウチクの草原　③植樹を終え記念写真　④第１回から参加の伊集院村長　⑤荒天の中２００人が参加　⑥コースは宮古崎折返し５キロ　⑦昼食はカレーライスとイノシシ汁

宮古崎の再生に協力しませんか？

　第５回宮古崎つつじウォーク（同実行委員会主催）が3月9日（日）、国直集落にて開催されました。

　同大会は国直公民館から国定公園宮古崎まで往復5キロの道のりを歩き、宮古崎にツツジの苗を植樹するという催し。当日はあいにくの雨模様にも関わらず150人が参加しました。

　宮古崎は奄美市名瀬根瀬部集落と大和村国直の間に位置し　リュウキュウチクに覆われた岬一帯は方言でササントウとも呼ばれています。

　古くからツツジの名所として知られた宮古崎ですが、道路整備に伴い盗掘が相継ぎ現在ではほとんど見ることができません。そこで、「人の手で壊された自然は人の手で再生しよう」と、国直青壮年団（岡崎勇次団長）を中心とするメンバーがタイワンヤマツツジの植樹を計画。植樹とあわせて自然保護の啓発、盗掘防止の広報活動を行おうと始めたのが同イベントです。参加者は起伏の激しいコースを元気に歩き、ツツジの苗150本を植えました。

　公民館に帰着後は婦人会が昼食にカレーライスを振る舞ったほか、集落民による「集落散策案内」や地元の若者達による「ミニライブ」を開催。公民館は終日賑やかな笑い声に包まれました。みなさんもウォーキングと宮古崎の再生に協力してみませんか？

４２年間ありがとうございました

永野豊副村長が退任

大和村副村長の永野豊氏（６６歳）から退職の申し出があり、伊集院村長がこれを受理。３月１９日付けで副村長の職を勇退いたしました。

　永野副村長は、昭和４７年大和村役場に入庁し、住民課、経済課、建設課長、総務課長を経て、平成１４年から大和村助役（後に副村長）に就任。３期１２年の副村長職をはじめ４２年間の永きにわたり大和村政発展のためご尽力下さいました。

　永野副村長は議会本会議に登壇し「今日まで村長の補佐役として業務を遂行できたのも議会の皆様や上司、同僚、村民の皆様の温かいご指導とご協力の賜であると感謝申し上げます。明日からは集落に帰り、一村民として村政の発展に協力させていただき、共に歩ませていただきます」と感謝の意を述べられました。

　庁内きっての『政策通』として知られ、温厚、きさくな人柄で職員や議員の信頼も厚かった永野副村長。退職後は健康に留意され新たな立場でご活躍いただき村政発展のためご指導・ご鞭撻下さいますようお願いいたします。

　長い間の役場務め本当にお疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

本人や家族の思いに寄り添うケア

大和まほろば福祉まつりを開催

大和まほろば福祉まつり（大和村・大和村地域包括支援センター主催）が３月１６日に大和村体育館にて開催されました。

　会場では、村内の地域支え合い団体らが生産する農産物や加工品などを販売するブースが多数出展されたほか、名音小学校の児童らによるシマウタと三味線の演奏が披露され雰囲気を盛り上げました。

　基調講演は「本人や家族の思いに寄り添うケアの試み～ホームホスピスかあさんの家の実践から～」と題し、ＮＰＯ法人ホスピス宮崎の市原美穂理事長が講演。宮崎市内で「ホームホスピスかあさんの家」を運営する市原理事長の実践する「在宅に近い生活環境の中で看取る」活動が語られました。

　市原理事長は、自身の介護体験を交え「一番大切なのは本人の思い。納得できるまで話し合い意思表示をしておくことが大事」と説きました。

　このほか事例報告が行われ、行政、社協、地域、家族の立場から４人が活動を発表しました（写真）。

　家族の立場から登壇した三田陽一郎さん（３１歳）は自宅で祖母をみとった体験を振り返り、「家族の衰えを間近で見る在宅介護は辛いが、地域の力を借り後悔しない最後を遂げさせてほしい」と語りました。

行政経験豊かな手腕に期待

泉有智氏が副村長に就任

平成２６年第１回大和村議会定例会が３月２８日に開催され、平成２６年度一般会計補正予算案の他、泉有智氏を副村長に選任する同意議案が提出。賛成多数で承認されました。

　泉氏は本村思勝出身の６３歳。武蔵工業大学を卒業後、昭和５４年に大和村役場に入庁。在職中の大半を建設畑で勤め上げ、自身も建築士の資格を有するなどの根っからの「技術屋」。建設課長、総務企画課長を歴任し、平成２３年から３年間大和村教育長を務めました。

　泉氏は「伊集院村長の２期目は、村の人口減少対策や奄美群島世界自然遺産登録、奄振交付金制度の運用開始など大変重要な時期を迎えています。村長が取り組む『村民目線の行政』と『職員の意識改革』に全力で取り組みたい」と抱負を語りました。

　職員時代には「課長」「課長補佐」という立場で伊集院村長と机を並べた経験を持つ泉氏。伊集院村長の補佐役として、行政経験豊富な泉氏の手腕に期待が高まります。

　なお、副村長の任期は平成２６年４月１日から平成３０年３月３１日までの４年間。

頑張る村民を応援する広報誌づくりを

広報やまとが鹿児島県広報コンクール３部門で入選

鹿児島県は、県内行政広報の向上に資することを目的として県内の市町村が一年間に発行・発表した広報媒体を対象として、広報誌・一枚写真・組み写真・ウェブサイトの４部門において広報コンクールを開催しています。

　２月１０日、鹿児島県知事公室秘書広報課から平成２５年度鹿児島県広報コンクールの審査結果が発表され、広報誌部門において本村広報誌「広報やまと３月号」が４年連続４度目の入選を果たしたほか、写真部門において一枚写真「ワキャシマヌウタを唄う」及び組み写真「ひらとみ祭り舟漕ぎ競争」が入選。広報誌３部門において入選の栄誉を賜りました。

　このことは、関係各位のご協力はもとより、広報の各ページを飾った村民のみなさんの日頃のご尽力の賜だと感謝する次第です。

　身に余る高い評価いただいたことに奢ることなく、これからも「頑張る村民を応援する広報誌づくり」を目指して参ります。

　今後とも村広報行政へご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、鹿児島県広報コンクール入選のご報告と致します。

辛さを忘れ青い海に感動

大和村縦断２１ｋｍ遠行　～今里小～

大和村立今里小学校（真辺幸成校長・児童４名）では、３月７日に春の野外体験学習として今里から国直までの２１ｋｍ大和村縦断に挑戦しました。

遠行には体験留学生の小口優歌さん（５年生）も加わり国直海岸めざして今里小を出発。海のない長野から来た優歌さんは、美しい海や風景に疲れも忘れて元気よく歩きました。

遠行は自分の足で歩くことで、新しく発見できたものもありました。美しい景色以外に、空き缶やペットボトルなどの投げ捨てられたゴミの多さにも驚き、持っていたナイロン袋にゴミを拾いながら歩きました。

１４時３０分に国直海岸到着。２１ｋｍを全員が完歩しました。国直海岸では足の痛さも忘れて、ビーチフラッグや相撲、サンドアートなど元気いっぱい遊んで過ごしました。

遠行を終え体験留学で参加した優歌さんは「私の住んでいる所には海がないので、黒色に近い青色の海はとてもきれいでした。長くて少し苦しい時もありましたが、笑いながら歩いたり、走ったりして楽しかったです。また、今里小学校の生徒ではないのに一緒に参加できて仲良くなれてとてもうれしかったです。」と感想を述べました。

ありがっさまりょ～た！

平成２６年度鹿児島県教職員人事異動（大和村関係分）

鹿児島県県教育委員会から平成２６年度の定期人事異動が発表されました。異動規模は前年度より１９人少ない２９２８人。大和村関係分は転出者９名、転入者１４名、計２３名の異動となりました。転出される先生方「ありがっさまりょ～た！」

□転出者

戸口小・龍郷町	長原弘久校長（大和小）
川尻小・指宿市	井上真奈美教諭（大和小）
退職	竹本奈美教諭（大和小）
南薩少年自然の家	上野達也教頭（大棚小）
諏訪小・曽於市	平山淳郎教頭（名音小）
山田小・姶良市	播磨芳郎事務職員（名音小）
退職	神田麻里講師（名音小）
野田中・出水市	大野暁教頭（大和中）
田検中・宇検村	山田良太教諭（大和中）
緑が丘小・奄美市	濱田智江美養護教諭（大和中）

□着任者

大和小	渡島正広校長	（伊津部小・奄美市）
大和小	福山貴章教諭	（曽木小・伊佐市）
大和小	城山加寿乃教諭	（期限付採用）
大棚小	田畠正英教頭	（牧ノ原小・霧島市）
名音小	長田正浩教頭	（早町小・喜界町）
名音小	金井百合子講師	（育児休暇代替）
名音小	北岡勝教諭	（期限付採用）
名音小	作井由希乃教諭	（期限付採用）
名音小	山田智子事務職員	（期限付採用）
今里小	登島梨沙教諭	（期限付採用）
今里小	原彩教諭	（期限付採用）
大和中	前泊勝利教頭	（小宿中・奄美市）
大和中	松下賢司教諭	（上小原中・鹿屋市）
大和中	沖田優子養護教諭	（住用中・奄美市）

生きハブ買い上げは3千円に

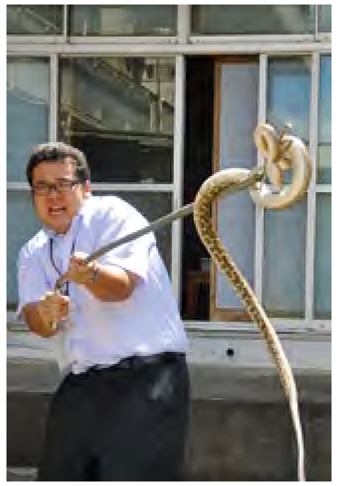
平成25年度まで、生きハブの買い上げ単価は一匹あたり4，000円で行なっていました、その内訳は、県補助額が2，000円、村負担額が2，000円です。

この度、鹿児島県の生きハブ捕獲奨励買上事業に係る買い上げ金の改定がなされ、平成26年4月1日からハブ一匹あたりの買い上げに係る県補助額が1，500円となりました。

このことを受け、奄美大島5市町村において、一匹あたりの買い上げに係る負担額を県と同額の1，500円とすることといたしました。このことにより、平成26年4月1日から捕獲された生きハブの買い上げ単価は一匹あたり3，000円となります(県1，500円・村1，500円)。

買取単価が減額となりますが村民のみな様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

□問い合わせ先
　大和村役場　住民税務課生活係
　電話：0997―57―2111
　内線141



パスポート窓口の終了について

平成26年4月1日から奄美市役所及び龍郷町役場でパスポートの申請や受取などの手続ができるようになりました（大和村ではすでにパスポート窓口を開設しています）。それに伴い県大島支庁総務企画課のパスポート窓口での申請受付は3月31日をもって終了いたしました。

4月1日以降にパスポートを申請する方は住民登録されている市町村役場での手続をお願いいたします。

なお，3月31日までに県大島支庁総務企画課でパスポートを申請された方については、パスポートの受取は4月以降も県大島支庁総務企画課、または県民交流センターのパスポート窓口になりますのでご注意下さい。

□パスポート窓口終了に関する問い合わせ
　鹿児島県大島支庁総務企画課
　電話：0997―52―1098
□パスポートの申請に関する問い合わせ
　大和村役場総務企画課
　電話：0997―57―2111
　内線137

アルコール依存症からの回復

AAとは、自らに飲酒の問題があり、その飲酒のとらわれから回復しようという人たちの自助グループです。「酒をやめたい」という願いがある」ということだけがメンバーの条件であり、それ以外のことは一切問われません。

このたび、私たち「AA徳之島アイランドグループ」と「AAあまみアダングループ」は、左記のとおり「第1回オープン・スピーカーズ・ミーティング」を開催させていただきます。かつての問題飲酒者である私たちが、どうやって飲酒へのとらわれから解放されてきたか、AAメンバーがそれぞれの体験を語ります。

また、専門家の先生のアルコール依存症についての講演、さらに行政、医療の現場で関わってくださっている関係者のお話など、内容は盛りだくさんです。

お酒の問題で悩んでいる本人、ご家族、医療・福祉・保健・教育・民生委員・更生保護・他関係者の皆様、また関心ある方はどなたでも参加できます。多くの方のご参加をお待ち申し上げます。

□開催日時：平成26年5月24日（土曜日）
　午前9時30分から午後3時30分
□会場：鹿児島県大島支庁４F大会議室
　〒894-8501 奄美市名瀬永田町 17-3
□講演：奄美病院精神科医師　佐藤伸一郎
　先生「アルコール依存症からの回復」
□お問い合わせ：あまみアダングループ
　電話：090―3400―7461

奨学資金貸付制度のご案内

本村においては、能力があるにもかかわらず経済的理由によって高等学校及び大学等への進学困難な生徒に対して学資を貸与して有用な人材を育成するため、奨学資金の貸し付けを行っています。

□奨学生の資格
　奨学金の貸付を受けることのできる者(奨学生)は、本村内に引き続き3年以上居住している者の子弟で、高等学校以上の学校に在学している者で、品行方正、学力優秀で学資の支弁が困難と認められる者。

□貸付金額

高等学校奨学生	月額一万円
高等専門学校奨学生	月額一万五千円
短期大学奨学生	月額二万円
大学奨学生	月額三万円

□貸付の期間
　貸付を決定した月から貸与を受けた者が在学する学校の正規の修学期間の終了する月までの期間

□資金の返還
　卒業の日から起算して6ヶ月後から、下記の期間内に月賦、半年賦、年賦で返還をしなければならない。

高等学校奨学生	6年
高等専門学校奨学生	8年
短期大学奨学生	6年
大学奨学生	8年

※　大和村奨学資金に関する詳しいことは、大和村教育委員会事務局までお問い合わせください。

パーティー料理の定番・ラザニア

ラザニアはイタリアでも人気の家庭料理でお祝いやパーティー料理の定番だとか。ラザニア麺と重ねる具材もバリエーション豊富で、挽肉とソースのみのシンプルな品からシーフードやお肉を何層にも重ねる豪華な一品まで様々だとのこと。

「旬の物なら何でもいいんだよ」そう語る森山シェフは大和浜産のコサン竹（大名竹）をトッピングしてくれました。パスタとチーズ、濃厚なソースに絡むコサン竹の食感は「見知らぬ土地で思いがけず再会する旧友」の様な懐かしい感覚。森山シェフの料理は元々島野菜がイタリア料理の食材であったような錯覚さえ覚えます。

そんなシェフのご案内も今回が最終回。ボランティアでの取材に一年間おつき合いいただきました。島への愛情溢れる料理を提供いただきありがとうございました。取材後の試食はまさに「いっさごれ万歳！」でした（笑）

旬の食材盛りだくさん

居酒屋いっさごれ森山修二シェフ

《食材》
ラザニア麺・コサン竹（2,3本）・ナス（1本）・小エビ（100g）・キノコ類（1パック）・玉葱（1個）・ニンジン（1/4）・セロリ（一切れ）・空豆（5本）・粉チーズ

《調味料》
ミートソース・ホワイトソース
※市販の缶詰で可

《調理法》
① ラザニア麺を茹でる
② コサン竹・小エビ・ナス・キノコ類を塩胡椒で味を調えオリーブオイルで炒めておく
③ 耐熱皿にバターを塗り茹でたラザニア麺を敷く
④ 麺の上にミートソースを塗り、炒めた具材をのせ、ホワイトソースをかける
⑤ ④を２～３回繰り返し重ねる
⑥ 表面に粉チーズを振りオーブンで焼く

島の宝

満1歳おめでとう

すくすくと育て
玉黄金
ほでてためになれ
島の宝

南　理世良（りよら）さん
保護者・南光昭さん（大和浜）

おねえちゃんに負けないほどのおてんばさんに。ずっと健康でね。

中山　栄鉄（えいてつ）さん
保護者・中山一三さん（津名久）

大好きな高栄じいちゃんから命名。優しい人に育ってね。

こせきの窓

人口	1,642人	（△19）
男	794人	（△1）
女	848人	（△18）
世帯	875戸	（△1）

3月1日現在
（前年同月比）

お悔やみ申し上げます

長増　榮造　様（84歳・大和浜）
泉　俊隆　様（79歳・大和浜）
村山　範和　様（60歳・思勝）
今井　良枝　様（29歳・大棚）
柳沢チズ子　様（87歳・大棚）
濱田　礼子　様（63歳・今里）
畑島　昌子　様（73歳・大和浜）

香典返し（社会福祉協議会へ）

長増　敏洋　様（故長増榮造様）
村山　米和　様（故村山範和様）
政　スミ子　様（故政敏朗様）
今井　真作　様（故今井良枝様）
伊集院つるみ様（故柳沢チズ子様）

ふるさと納税ありがとうございます

政　文祐　様（神奈川県）
江浪まつみ　様（兵庫県）
児玉　初子　様（霧島市）

広報誌謝礼ありがとうございます

大森　富久　様（東京都）
元　善二　様（東京都）
勝間田義則　様（千葉県）
石塚　タカ　様（鹿児島市）
榊　美乃　様（奄美市）

今月の題字（やまと）

（と）大和中学校3年　勝　純一さん
（ま）大和中学校3年　賀川航太さん
（や）大和中学校3年　登　海人さん

平成26年度大和中学校生徒会から3名の役員に題字を書いていただきました。新生徒会長の勝純一くん（名音小卒）に活動の目標を訊ねると「いつもお世話になっている地域との結びつきを大切にし、清掃など奉仕活動をがんばりたい」と答えてくれました。学校と地域が一体となって生徒会活動を応援したいですね。

わきゃ島ユムタ 第三回

「ディ！」さあ、始めよう

「ディ！」とは、行動を起こす際に呼びかける方言で、「さあ！始めよう」の意。「作業の合間の休憩が長引いたとき」、「深夜まで飲み会が続くとき」など、膠着状況にある雰囲気を一変させる力を持つ不思議な言葉。「ディ！」の一言でみんなが動き始めます。

「ディ！」が若者世代へ認知されるきっかけとなったのは平成15年の奄美群島日本復帰50周年イベント「夜ネヤ、島ンチュ、リスペクチュ！」。奄美市職員バンド「サーモン&ガーリック」の二人が「ディ！ディ！なま行きょう！(さあ、今始めよう！)」と歌い、同イベントの仕掛け人、NPO法人ディ！麓健吾代表（あまみエフエム放送局長）が「島に無いことを嘆いても仕方ないじゃないか。今、僕たちにできることをしよう」と呼びかけた。

「夜ネヤ」のイベント開催と前後し、島には若手アーティストが次々と登場。若者達の間ではシマウタを見直し、先人をリスペクト（尊敬）する機運が醸成。なにより若者達の間にシマッチュであることへの誇りが芽生えました。

「大高打つぞ！大高打つぞ！」「ディ！ディ！なま行きょう！」

奄美の代表的なシマウタ「稲摺り節」のメロディとともに甲子園球場に「ディ！」のフレーズが響き渡りました。

『稲摺り節』&『ディ！』の応援は、奄美らしさを表現しようとセンバツ出場を機に作られました。親指を立てるしぐさや両手を左右に手招く動作はまるで八月踊りを見るかの様。チャンスともなると生徒たちは拳を突き上げ選手達を後押し。選手達も甲子園の大歓声に臆することなく全力プレーで応援に応えました。

絶対に不可能と思えた「島から甲子園」の夢を成し遂げ、強豪校相手に中盤まで互角に戦った大高ナインたち。

彼らの残した軌跡は全国のシマッチュに大きな感動と勇気を与えました。夢に向かって努力する若者たちの姿に、そして群島民が一丸となって応戦する姿に奄美の未来を重ね合わせたのは私だけではないでしょう。

次の10年へ、「ディ！」。さあ、始めましょう。

NPO法人ディ！
ロゴマーク

←バーコード読み取り機能付き携帯電話をご利用の方はここから大和村ホームページ携帯サイトへ簡単にアクセスできます。それ以外の方は直接URLを入力してアクセスしてください。
（http://www.vill.yamato.lg.jp/i/）

発行・編集 大和村役場総務企画課
〒894-3192 鹿児島県大島郡大和村大和浜100番地
TEL 0997-57-2111　FAX 0997-57-2161
mail:info@vill.yamato.lg.jp
http://www.vill.yamato.lg.jp